



グリーンレター Green Letter

Green Column グリーンコラム

01 ホッチャレを川から森に運ぶ

02 残念?なトンボ ウスバキトンボ

Vol.351

2026/11/01



町田善康《トビの狩りとバトルを激写》

Photo 今月の1枚

毎年9月になると、美幌温水ため池の水が抜かれます。この営みは半世紀近く続いており、生き物たちも適応している気がします。ある朝、ため池に行くと、トビたちが上空を旋回していました。すると、そのうちの何羽かがため池に向かって急降下！水が抜かれて獲りやすくなった魚を、仕留めていきます。やっぱりもうきんるい猛禽類。カッコイイ。(町田善康)



01 Green Column グリーンコラム

ホッチャレを 川から森に運ぶ

写真・文／町田善康

秋になると、多くのサケやマスが川を遡上して産卵します。北米（アラスカやカナダ）や日本（知床など）の研究によると、ヒグマは遡上してきたサケやマスを捕らえて森の奥まで運び、食べ残したり排出（フン）したりすることで、海の栄養を大地へと届けます。その結果、川沿いの木の成長が促進されたり、ヒグマが食べ残した死骸（ホッチャレ）がキツネやカラスなどの貴重な糧になったりします。「それならば、川で見つけたホッチャレにカメラを仕掛ければ、ヒグマが撮影できるのでは！？」と思い、試してみました。

しかし、カメラに映ったのは、ヒグマではなくタヌキでした。タヌキは、ネズミなどの小動物や昆虫、植物を食べる雑食性で、身近にあるものを利用します。そのため、川沿いにあるホッチャレは、タヌキにとってご馳走だっ

たと思います。

さらに興味深いことに、タヌキもホッチャレを川から森へ持ち込んでいました。ヒグマ同様、タヌキもまた海の栄養を森へ運ぶという、生態系の中での非常に重要な役割を果たしているのかもしれません。ちなみに、その後も何度かカメラを仕掛けましたが、今のところ映るのはタヌキばかりです。時には、カメラを仕掛けてすぐにホッチャレを持っていくなど、私が考えている以上にタヌキは大活躍しているようです。

追伸：実際の様子は、以下から見ることができます。<http://www.momo-p.com/index.php?movieid=momo241120np01a&embed=on>

残念？なトンボ ウスバキトンボ

写真・文／鬼丸和幸

毎年、日本のはるか南方より海を越えて、美幌町へ渡ってくるトンボがいます。トンボ科のウスバキトンボです。

ウスバキトンボは、体長約 50mm 前後の中型のトンボで、世界中の熱帯～温帯地域を中心に広く分布しており、国内でも全国各地で見られます。ハネが、効率よく風を受けられるように幅広い形をしているため、トンボの中でも、最も移動能力が高いトンボだと言えます。

ところが、せっかく南方より長距離移動して北海道へたどり着いても、冬の寒さに耐えられず、毎年死滅してしまいます。それでも、毎年渡ってくるという不思議なトンボです。“継続は力なり”の格言のごとく、将来、地球温暖化が進み、平均気温が上昇するようになれば、もしかしたら北海道でも越冬できて、定着できるようになるか



もしれません。

9月中旬、東陽小学校2年生の児童らと、福住地区にある美幌温水ため池周辺を散策し、トンボ探し授業を行いました。その時、児童の1人が、まだ羽化して間もないウスバキトンボを発見！これまで道東地域では、いつ頃ウスバキトンボが飛来して、羽化して成虫になるのかなど、あまり詳しい情報がなかったこともあり、貴重な発見となりました。おそらく、7月過ぎに美幌町へ飛来した成虫が産卵し、1週間程度で幼虫がふ化し、2ヵ月程度の幼虫期間を経て成虫になった…という事が予想できました。

自分の子孫を広く残すため、世界の広い地域を飛び回り続けるウスバキトンボ。美幌産のウスバキトンボが見られるのも、近い将来かもしれません。

Exhibition 展示

特別展「生き物たちの地球」
～ 11/23 (月)

ロビー展「中村裕の陶展」
～ 2027/1/31 (日)

おひろめコレクション展
12/5 (土)～ 2027/1/17 (日)



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

プチ工房「モールサンタ」

11/27 (金)、28 (土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了
美幌博物館 1 階 講座室・400 円
講 師／早田真莉子 (美幌博物館)
対 象／どなたでも (小学 3 年生以下は保護者同伴)
申込み／美幌博物館に電話で申込み。各日 50 名で締切。



プチ工房「フェルトボールのクリスマスリース」

12/4 (金)、5 (土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品
ができ次第終了
美幌博物館 1 階 講座室・400 円
講 師／城坂結実 (美幌博物館)
対 象／どなたでも (小学 3 年生以下は保護者同伴)
申込み／美幌博物館に電話で申込み。各日 50 名で締切。



冬休み子ども木工教室

2027/1/11 (月) 9:30～12:00
美幌博物館 1 階 講座室・800 円
講 師／おいで家具
対 象／小学 3 年生以上
申込み／美幌博物館に電話で申込み。12 名で締切。



送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどの
ご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。

Tweet つぶやき

「北の国から」の作者 倉本聰氏をご逝去。私のイチオシ番組シーンは、
実母の葬式で上京した純・蛍が、再婚父に言われるがま
まに、昔、実父が買ってくれた古靴を捨てたのを後悔し、
北海道訛りの巡視中警官と、夜の路地裏でゴミ箱をひっ
くり返しながら探すシーンでした。(鬼丸和幸)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発 行】美幌博物館
【デザイン】城坂結実
【編 集】早田真莉子
【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002
北海道網走郡美幌町字美禽 253-4
Tel. 0152 (72) 2160
Fax. 0152 (72) 2162

